

## 市内中小企業景況調査結果（平成26年1～3月）

### 今期好転のまま推移、来期は悪化するものと予想

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第4四半期（平成26年1～3月期）の調査結果を報告します。

#### ● 調査時点

平成26年3月1日

#### ● 調査対象時期

平成26年1～3月期状況、平成26年4～6月期見通し

#### ● 調査回答企業数

市内の建設業7社、製造業7社、卸売業8社、小売業9社、サービス業11社（回収率84%）

#### ● DI（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

#### 【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期では、全体としてはやや好転となったものの、製造業や建設業において伸び悩んだ。今期では、製造業が引き続き悪化のまま横這いとなり、建設業でもマイナスに転じている。小売業ではマイナス幅が小幅ながら縮小している。卸売業ではプラス域のまま横ばい、サービス業ではプラス幅が拡大している。

先行きについては、消費税増税の影響もあり、建設業では大幅な悪化となり、サービス業ではマイナスに転じるものと予想。製造業と小売業ではともに好転するものの、マイナス域にとどまるものと見込んでいる。卸売業でも悪化となり、今期の大幅なプラスから±0.0まで悪化するものと見ており、全体としては悪化するものと予想している。

#### ● 今期(26年1～3月期)の状況（前年同期比）

全産業合計の業況DI（前年同期比）は、前期（25年10～12月期）と比較して、2.4ポイントのプラスとなり、DIでは△2.4まで好転している。

業種別の業況をみると、卸売業では前期と変化なく37.5ポイントとプラスのまま推移している。サービス業では9.1ポイントのプラスとなり、DIでは18.2とプラス幅が拡大している。小売業では8.3ポイント好転しているものの、DIでは△25.0とマイナス域での推移となっている。建設業では14.3ポイントのマイナスとなり、マイナス域に転じている。製造業では△42.9で変化なく悪化のまま推移している。

## 〔売 上〕

全産業で見ると前期（25年10～12月期）と比較して、小売業・製造業では僅かながらマイナス幅が拡大しているものの、他の業種では好転しており、全体としては12.0ポイントのプラスとなり、DIでも14.3と好転しプラス幅が拡大している。卸売業では前期と同様に62.5ポイントと大幅にプラスのまま推移している。建設業では28.6と大幅なプラス、サービス業でも18.2ポイントプラスとなりDIでは27.3となっている。製造業では3.6ポイントと小幅ながら好転しているがDIでは△28.6と悪化のまま推移、小売業でも11.1ポイント好転しているものの、△22.2とマイナス域で推移している。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（25年10～12月期）と比較して、6.8ポイントのマイナスとなり、DIでは△14.3となっている。業種別にみると、卸売業では17.9ポイント悪化しているものの、DIでは25.0ポイントのプラスにとどまっている。サービス業においても0.9ポイント悪化とほぼ横這いで推移している。建設業では前期の±0.0から大幅な悪化となり、DIでは△28.6となっている。製造業では僅かながら好転しているものの、DIでは△42.9と悪化のまま推移、小売業は11.1ポイント悪化し、DIでは△44.4と悪化のまま推移している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（25年10～12月期）と比較して、業種によりまちまちの動きとなっており、4.0ポイント好転しDIでは△7.1となっている。小売業では前期の±0.0から12.5ポイントの好転となっている。サービス業では前期と変化なくDIでは+9.1のまま推移。製造業では23.2ポイント好転しているものの、DIでは△14.3にとどまっている。建設業では前期と変化なく△14.3となっている。小売業では、11.1ポイントの悪化となり、DIでも△33.3とマイナス幅が拡大している。

## ●来期(26年4～6月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況DI（前年同期比）は、全体的に悪化しており、今期と比較して16.5ポイントのマイナスとなり、DIでも△18.9と悪化するものと見ている。

業種別の業況をみると、製造業では26.2ポイント好転するものの、DIでは△16.7と悪化のまま推移。小売業でも10.7ポイント好転するものの△14.3にとどまっている。卸売業では37.5ポイントの大幅な悪化となっているが、DIでは±0.0にとどまっている。サービス業では38.2ポイントの悪化となり、DIでも△20.0とマイナスに転じている。建設業でも28.6ポイントの悪化となり、DIでも△42.9と悪化するものと予想している。

## 〔売 上〕

全産業で見ると、今期と比較して36.5ポイントの大幅なマイナスとなり、DIでも△22.0とマイナスに転じるものと見ている。

業種別にみると、小売業では11.1ポイント好転しているものの、DIでは△11.1となっている。製造業では今期と変化なく△28.6と悪化のまま推移するものとみている。サービス業では67.3ポイントの大幅な悪化となり、DIでも△40.0とマイナスに転じている。建設業でも57.2

ポイント悪化し、DI では $\Delta 28.6$  とマイナスに転じるものと見ている。卸売業では 65.5 ポイントの大幅な悪化となっているが、DI では $\pm 0.0$  にとどまるものとみている。

### 〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して 7.7 ポイントのマイナスとなり、DI では $\Delta 22.0$  と悪化するものと見ている。

業種別にみると、小売業では 11.1 ポイントのプラスとなっているものの、 $\Delta 33.3$  と悪化のまま推移。建設業では 14.3 ポイントのマイナスとなり、DI でも $\Delta 42.9$  となっている。製造業では 42.9 ポイントと大幅な悪化となっているものの、DI では $\pm 0.0$  にとどまっている。サービス業では 29.1 ポイントの悪化となり、DI ではマイナスに転じるものとみている。卸売業でも 37.5 ポイントと大幅に悪化し、DI でもマイナスに転じるものと予想している。

### 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して 14.9 ポイントとの悪化となり、DI では $\Delta 22.0$  とマイナス幅が拡大するものと見ている。

業種別にみると、卸売業では 12.5 ポイントのマイナスとなるものの、DI では $\pm 0.0$  にとどまる見込み。建設業及び製造業では 14.3 ポイント悪化しており、DI ではともに $\Delta 28.6$  となるものと予想している。サービス業では 39.1 ポイントの大幅な悪化となり、DI でもマイナスに転じるものとみている。小売業では今期と変化なく、DI でも $\Delta 33.3$  とマイナス域で推移するものと予想している。

### ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(25年1～3月期：15.9%)と比較して 15.1 ポイント上昇し、31.0%の実績となり、前期実績(平成25年10～12月期：20.9%)と比較しても 10.1 ポイントの上昇となった。

設備投資を実施した企業の割合を業種別で見ると、建設業 71.4%、製造業 57.1%、卸売業 37.5%、サービス業 27.3%、小売業 0.0%となっている。主な投資内容としては、OA機器(11.9%)、車輛運搬具(9.5%)、付帯施設(4.8%)、建設機器(4.8%)となっている。来期については 14.3%となっており、今期に比べ半減する計画となっている。

### ●経営上の問題点

建設業では、前回と同様「民間需要の停滞」が 1 位となり、「請負単価の低下・上昇難も引き続き 2 位となり、また、「材料価格の上昇」も 2 位となっており、「熟練技術者の確保難」は 3 位に下がっている。製造業では、1 位「原材料価格の上昇」、2 位「需要の停滞」に変化はなく、3 位に「原材料の不足」が入っている。卸売業では、「仕入単価の上昇」の 1 位は変化なく、「販売価格の低下・上昇難」が 2 位に下がり、3 位には「需要の停滞」が前回の 2 位から順位を下げている。小売業では、引き続き 1 位「大型店・中型店の進出による競争の激化」、2 位「購買力の他地域への流出」、3 位「需要の停滞」に変化はないものの、新たに 3 位に「消費者ニーズの変化への対応」が入っている。サービス業でも、1 位「需要の停滞」、3 位「店舗施設の狭隘・老朽化」に変化はないものの、2 位には「利用者ニーズの変化への対応」、新たに 3 位には「人件費以外の経費の増加」が入っている。

## 業 種 別 D I 値 表 平成26年1～3月期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全 産 業	42	△2.4	△18.9	14.3	△22.0	△14.3	△22.0	△7.1	△22.0	2.4
建 設 業	7	△14.3	△42.9	28.6	△28.6	△28.6	△42.9	△14.3	△28.6	△14.3
製 造 業	7	△42.9	△16.7	△28.6	△28.6	△42.9	0.0	△14.3	△28.6	△28.6
卸 売 業	8	37.5	0.0	62.5	0.0	25.0	△12.5	12.5	0.0	62.5
小 売 業	9	△25.0	△14.3	△22.2	△11.1	△44.4	△33.3	△33.3	△33.3	△22.2
サービス業	11	18.2	△20.0	27.3	△40.0	9.1	△20.0	9.1	△20.0	9.1

① 前年同期（平成25年1月～3月）と比較した今期（平成26年1月～3月）の状況

② 前年同期（平成25年4月～6月）と比較した来期（平成26年4月～6月）の見通し

### 直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	民間需要の停滞	材料価格の上昇／請負単価の低下・上昇難	熟練技術者の確保難
製 造 業	原材料価格の上昇	需要の停滞	原材料の不足
卸 売 業	仕入単価の上昇	販売単価の低下・上昇難	需要の停滞
小 売 業	大型店・中型店の進出による競争の激化	購買力の他地域への流出	消費者ニーズの変化への対応／需要の停滞
サービス業	需要の停滞	利用者ニーズの変化への対応	店舗施設の狭隘・老朽化／人件費以外の経費の増加

設備投資を今期実施した 31.0%

設備投資を来期計画している 14.3%

# 全産業 業況判断DIの推移

《好転》



30.0

20.0

10.0

0.0

-10.0



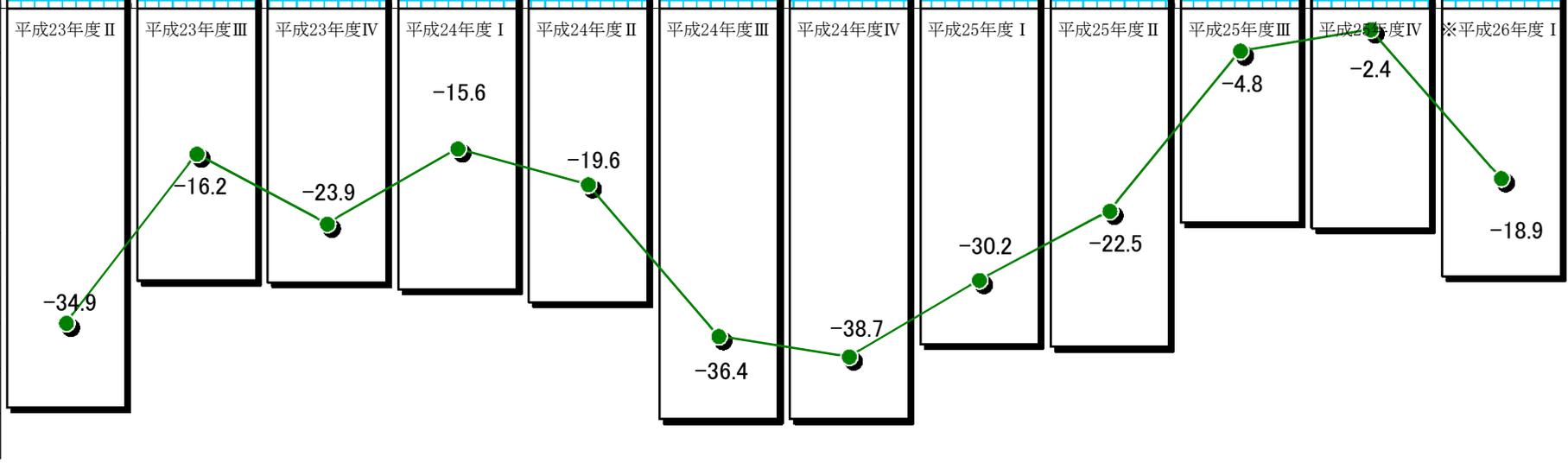
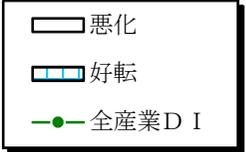
《悪化》

-20.0

-30.0

-40.0

-50.0



## 【業況判断DI】

《好転》、《不変》、《悪化》の選択肢のうち、《好転》と答えた企業の割合から《悪化》と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期(平成25年4～6月)と比較した来期(平成26年4～6月)の見通し